

令和元年度 地域医療体験研修 報告集

研修日 令和元年8月26日（月）～8月28日（水）



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

福島県会津保健福祉事務所
福島県南会津保健福祉事務所



目 次

1	実施要項	1
2	スケジュール	2
3	地域おこし協力隊との交流	3
4	特別養護老人ホーム「かねやまホーム」 事例検討・ケアカンファレンスの見学 等	4
5	保健医療福祉従事者との懇談会	6
6	只見町国民健康保険朝日診療所 外来診療見学 等	7
7	南会津地方広域消防本部 救急搬送体制の説明 等	9
8	医師による講話	10
9	学生によるディスカッション・懇親会	11
10	福島県立南会津病院 講義・訪問看護ステーション概要説明	13
11	課題研究のまとめ・発表	14
12	研修の感想	15

1 実施要項

1 研修の目的

地域医療に関心を持つ医学生を対象に、地域医療等の現状視察や地域住民との交流などの場を提供し、過疎・中山間地域における地域医療や地域の現状について理解を深めてもらうことを目的とする。

2 開催日

令和元年8月26日（月）～8月28日（水）〔2泊3日〕

3 対象者

地域医療に関心を持つ医学部学生（学年不問）

4 参加者

13名

5 研修内容

（1）地域医療現場等の視察

会津・南会津地域の診療現場及び社会福祉施設を視察する。

〈視察先〉特別養護老人ホーム「かねやまホーム」、只見町国民健康保険朝日診療所、南会津地方広域消防本部、福島県立南会津病院

（2）地域住民・地域医療等に従事する保健医療福祉従事者との意見交換

地域住民からは、過疎・中山間における生活の現状や医療に期待することを、上記機関の保健医療福祉従事者からは地域医療に関する考え方や体験談など生の声を聞き、意見交換を行う。

（3）奥会津地域での生活に触れる

三島町で生活し、活動している地域おこし協力隊員から、活動の内容や生活をしていく上で困っていること、助かっていることなどの話を聞くことで、過疎・中山間地域での生活や魅力について理解を深める。

また、山ぶどうストラップ作り体験を通して奥会津地域の文化に触れる。

（4）課題研究及び発表

あらかじめ提示する課題について研究する。

また、地域医療体験研修を通して学んだこと、考えたことをまとめ発表する。

6 宿泊場所

玉梨温泉 恵比寿屋（金山町）、和泉屋旅館（南会津町）

2 スケジュール

月日	行 程	場 所
8月26日 (月)	三島町地域おこし協力隊との交流	三島町 三島町交流センター山びこ
	特別養護老人ホーム「かねやまホーム」 回診見学・事例検討 等	金山町 特別養護老人ホーム「かねやまホーム」
	保健医療福祉従事者との懇談会	金山町 玉梨温泉 恵比寿屋
8月27日 (火)	只見町国民健康保険朝日診療所 外来診療見学 等	只見町 只見町国民健康保険朝日診療所
	心肺蘇生法の実習 等	南会津町 南会津消防署
	地域医療に従事する医師の講話	南会津町 和泉屋旅館
	学生によるディスカッション	
8月28日 (水)	施設見学、医師による講義	南会津町 福島県立南会津病院
	課題研究のまとめ、発表	

3 地域おこし協力隊との交流

【 日 時 】 8月26日(月) 10:30~13:00

【 場 所 】 三島町 三島町交流センター山びこ

【 目 的 】 奥会津地域で生活し、活動している地域おこし協力隊員と交流することで、活動内容や過疎・中山間地域での生活、魅力について理解を深める。

【 内 容 】

1 地域おこし協力隊員の活動紹介

○三島町の地域おこし協力隊員等から地域での活動の様子や日々の生活についてお話しいただきました。

(三島町生活工芸館：清水夏穂さん/三島町地域おこし協力隊：吉垣絵梨子さん)



2 山ぶどうストラップ作り体験

○三島町の伝統工芸である編み組細工の体験として山ぶどうのストラップ作りを体験しました。



参加者の声(体験レポート等より)

- 人と人との距離が近く、結びつきが強いことは、都市部にはない大きな強みに感じた。
- 県外出身の方々が福島のために活動していて感動した。自分ももっと、なにか福島のために頑張りたい。
- 奥会津でのゆっくりした生活もとても魅力的に感じ、自分も住んでみたいと思った。
- 話をされた2人とも共通して“自分の好きなこと”が移住への大きなポイントになっていると感じた。
- ストラップ作りを通して、地場産品の精巧さとそれにかかる思いを感じ取れた。

4 特別養護老人ホーム「かねやまホーム」 事例検討・ケアカンファレンスの見学 等

【 日 時 】 8月26日(月) 13:30~16:30

【 場 所 】 金山町 特別養護老人ホーム「かねやまホーム」

【 目 的 】 利用者とのコミュニケーションや事例検討等を通じて、コミュニケーション能力を養うとともに、過疎地域における医療・介護の現状や、関係機関の役割と連携について理解を深める。

【 内 容 】

1 特別養護老人ホーム「かねやまホーム」の概要説明
(かねやまホーム 横山施設長より)

2 かねやまホーム嘱託医の回診見学

○金山町国民健康保険診療所 押部医師による回診の様子を見学させていただきました。



3 利用者との交流

○学生が3班に分かれ、ホーム内の各ユニットの行事（レクリエーション・おやつ作り・夕食の下準備）に参加しました。



4 事例検討

○各グループには、助言者として地域包括支援センターの職員の方々にも参加していただきました。



5 ケアカンファレンスの見学

○実際の利用者さんの事例を用いたケアカンファレンスを見学しました。



参加者の声（体験レポート等より）

- 一人一人に対して職業関係なく全員が理解していることで、良いケアが行え、それが利用者の笑顔につながっていると感じた。
- 入所者の皆さんのいきいきとした笑顔が印象的でした。
- 病院とは異なって、生活の場としてとても大きな役割を果たしていると感じた。
- 入所者の方について、入所される前まで振り返り、これまでの経過とケアの反省点など多くの項目を検討されていた。地域医療の根底にある「ひとをおもひ」ことの大切さを学ぶことができた。
- 医学的な面から見た最善策が、必ずしも患者さんやその家族にとっての最善策であるとは限らないのだと改めて実感した。
- 利用者さんが、施設がとても過ごしやすい、ここの自然が好きだとおっしゃっていた。1人1人の病状や経過を詳細に把握するなど、環境もとても大切だとわかった。

5 保健医療福祉従事者との懇談会

【 日 時 】 8月26日(月) 18:00~19:30

【 場 所 】 金山町 玉梨温泉 恵比寿屋

【 目 的 】 地域の保健医療福祉従事者との意見交換を通じて、地域医療への見識を深める。

【 内 容 】

○午後の研修でお世話になったかねやまホーム職員の方々と、夕食を兼ねた懇談会・意見交換会を行いました。



参加者の声(体験レポート等より)

- 地域の住民の方々はその地域での生活をとても気に入っていることがわかった。
- 職員の方から、より利用者さんの負担を減らすために努力しているというお話を聞くことができて良かった。
- 職員の方がこの仕事にとっても大きなやりがいを感じていることが伝わってきた。
- 奥会津での暮らしについて知ることができた。
- 実際の過去の事例など具体的に聞いて良かった。
- 施設内で行った事例検討について振り返り、意見を出し合うことができた。
- “認知症をかかえている老夫婦の老々介護”について意見交換をしたことが印象に残った。話し合いに夢中になってしまった。

6 只見町国民健康保険朝日診療所 外来診療見学 等

【 日 時 】 8月27日（火） 9：00～13：00

【 場 所 】 只見町 只見町国民健康保険朝日診療所

【 目 的 】 外来診療の見学や通院患者とのコミュニケーションを通じて地域医療の現状や住民の考えについて理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を養う。また、へき地診療所の持つ役割や他関係機関との連携について知識を深める。

【 内 容 】

1 外来診療の見学・通院患者とのコミュニケーション

○学生2～3名で1グループとして、外来患者さんとコミュニケーションを図り、病気や普段の生活について伺いました。また、了解を得た患者さんに同行し、診察から薬の受け取りまでの一連の流れを見学させていただきました。



2 診療所の概要説明

○朝日診療所 若山所長より、診療所の概要と医師の役割について説明を受けました。



3 診療所医師との意見交換

○若山所長をはじめとした朝日診療所の先生方と昼食を食べながら意見交換をしました



参加者の声（体験レポート等より）

- 地域医療の現場を直接見ることができ、とても有意義だった。患者さんが「ここがあるからいつでも安心」と話してくださり、自分が思う以上に、診療所が地域住民の心のより所となっていることを実感できた。
- 今まで医療というものは病院で完結するものだと考えていたが、病院から地域に戻って生活できるように、先のことまで考えて患者やその家族と話し合うことが大事だと分かった。
- 患者さんと直接お話しできたことが良い経験となった。
- 医師が患者さんに対して、患者の同居者を気にかける場面があり、患者本人だけでなく周りの人もサポートするという視野の広さが地域医療では求められるのかなと思った。
- 診療だけでなく地域のイベントにも参加するなど、地域の方々と積極的に交流すれば住民の普段の暮らしや、自分に何を求めているのかを知ることができる。それが地域に寄り添った医療に繋がっていくと思った。
- 患者さんの受診同行で、「雪んこタクシー」というサービスを知った。地域の医療を支えるためには、単に病院などの医療施設と医師がいればよいのではなく、行政による様々なバックアップも必要なのだと痛感した。

7 南会津地方広域消防本部

救急搬送体制の説明 等

【 日 時 】 8月27日（火） 14：00～15：30

【 場 所 】 南会津町 南会津地方広域市町村圏組合消防本部（南会津消防署）

【 目 的 】 南会津地域の多くは豪雪地帯であり、地域によっては医療施設までの距離が遠いことで、医療の提供まで時間を要する。傷病者の救命率や予後の向上のため、どのような取り組みを行っているか理解を深める。

【 内 容 】

1 施設・救急搬送体制の概要説明

○搬送時間短縮のための取り組み（ドッキング方式・ドクターヘリの活用）等について説明を受けました。

2 心肺蘇生法の実習

○学生が3班に分かれ、消防士の指導のもと心肺蘇生法の実習を行いました。

3 救急車の設備見学

○救急車内の設備について説明を受け、内部を見学しました。



参加者の声（体験レポート等より）

- 広大な南会津ならではの長い搬送時間の問題を解決するために、救急車に加え、ドクターヘリやドクターカーを用いて対応するなど搬送体制の工夫を理解できた。
- 救急車内の道具や装置を、小児や周産期の妊婦など多様な条件に対応可能とすることで多くの人を救えるのだとわかった。
- 救命救急士も、医師の指示の元で気管挿管などができると聞き、医師は救命救急士のような異なる職種の人に支えられて医療を行えるのだと学んだ。
- 救急車と人員の不足を実感した。カバー策の中でも、他の施設との連携やコミュニケーションの大切さについて気づいた。

8 医師による講話

【日時】 8月27日(火) 16:00~17:00

【場所】 南会津町 和泉屋旅館

【目的】 南会津地域で地域医療に積極的に取り組んでいる医師による講話を通して、南会津地域における医療の現状等について理解を深める。

【内容】 講師 福島県立南会津病院 佐竹 秀一 医師
演題 「福島県会津地域の地域医療と地域連携」



参加者の声(体験レポート等より)

- ・「顔の見える関係づくり」というキーワードが印象に残った。患者さんの希望を叶えるために、自分一人の力だけでなく、人と人とのネットワークを活用することが重要だと思った。
- ・私たちに何ができるのか、自分の中で考えることができた。
- ・会津は救急車の受け入れが1回で決まるような仕組みができていることが印象的だった。
- ・会津の医師不足や医師の偏在などの問題や、会津の医療の現状を理解することができた。
- ・実際に自分が医師となったときを想像しながらお話を聞くことで、この先取り入れていきたいと思うポイントが数多くあり、非常に勉強になった。
- ・地域医療ならではの問題や努力を聞くことができた。地域、職員と上手く協力しながらやるのが大事とわかった。
- ・病院と救急が連携を組むことで、患者の救命につながっていくこと、その連携の重要性を知ることができた。

9 学生によるディスカッション・懇親会

【 日 時 】 8月27日（火） 17：00～20：00

【 場 所 】 南会津町 和泉屋旅館

【 目 的 】 提示するテーマについて、参加学生間でディスカッションを行い、地域医療についての見識を深める。

【 内 容 】

テーマ A班 「医師不足解消の処方箋」
B班 「住民の健康を守る処方箋」

〈座 長〉 福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 坂本 信雄 先生

〈助言者〉 福島県立南会津病院 佐竹 秀一 医師

○学生が2班に分かれ、各々提示されたテーマに対してKJ法により問題点をまとめ、発表を行いました。



○講話をしてくださった佐竹医師に加え、南会津町 大宅町長、南会津郡医師会 馬場会長、会津・南会津保健福祉事務所 小谷所長を交えて夕食の懇談会を行い、意見交換を行った。



(左：大宅町長 右：馬場会長)



(左：佐竹医師 右：小谷所長)

参加者の声(体験レポート等より)

- 住民の健康といっても、それぞれの考える「健康」の価値観が異なること、心の健康にも気を配ることが大切だと気づいた。
- 医師不足についてより深く考えることができた。
- ディスカッションでは、人それぞれ地域医療のとらえ方はかなり異なっており、1つのテーマに関して多面的に深く考えることができた。人によってはユニークな意見を持っていて新鮮だった。
- 町長さん達からアドバイスをいただいて、多角的な視点から考えることの大切さに気づいた。
- 自分では思いつかないような意見を挙げる人が周りにたくさんいた。考え方は人それぞれで、解決策も一つではないということを改めて気づかされた。

10 福島県立南会津病院

講義・訪問看護ステーション概要説明

【日時】 8月28日(水) 9:00~10:45

【場所】 南会津町 福島県立南会津病院

【目的】 病院の概要説明や講義などを通して、へき地医療を支援する病院・医師の役割及び訪問看護の役割について見識を深める。

【内容】

1 病院の概要説明・院内見学

○佐竹賢仰病院長の挨拶の後、佐竹秀一医師の案内で院内を見学しました。

2 講義

講師 南会津病院 佐竹 秀一 医師

演題 「在宅医療と地域連携」

○模擬患者の事例検討を通して、包括的な医療の提供や、必要とされる医師の役割について講義を受けました。また、患者を他の医療機関へ紹介するために、どのような「診療情報提供書」を作成すればよいか実習しました。

3 みなみあいづ訪問看護ステーションの概要説明

○専門看護技師の平野氏より、訪問看護の概要と南会津病院での取り組みについて説明を受けました。



(左：佐竹医師 右：平野専門看護技師)

参加者の声(体験レポート等より)

- どうしたら患者さんが幸せになれるか、病状の他に家族全体、生活環境をみるというのが印象に残った。
- ケーススタディを通じて、患者を入院させて淡々と治療を施すだけが患者のためではなく、患者やその家族が望む形を実現することができるように医療に関わらなくてはならないと学んだ。
- 実際に働いているとき、医学的な知識が占めるのは半分程度で、他に、患者に必要なサービスや患者の家族の精神面のサポートなど、様々なことに目を向け対応する必要があることを知った。
- “佐竹チルドレン”として機会があれば他の人に向けて発信していきたい。

1 1 課題研究のまとめ・発表

【 日 時 】 8月28日（水）11：00～14：30

【 場 所 】 福島県立南会津病院

【 目 的 】 地域医療体験研修に参加して感じたことや学んだことをまとめ、発表し、学びを共有する。

【 内 容 】

〈テーマ〉

- ①今回の研修の感想
- ②地域医療に必要とされる医師とは
- ③地域実習を通して感じた医師のプロフェッショナリズムとは何か

〈座 長〉 福島県立医科大学医療人育成・支援センター 坂本 信雄 先生

〈助 言〉 福島県立南会津病院 佐竹 秀一 医師



参 加 者 の 声（体験レポート等より）

- 他の学生の発表を聞くことで、「そういう考え方もあるか」と新たな視点で今回の学びを見つめ直すことができた。
- 3日間で学んだことは地域医療だけではなく「今後」にも生かしていきたい。
- 将来一度は地域医療に携わりたいと思うようになった人が多かったと思う。
- 重要なこと、必要なことは変わらなくても、人それぞれ得意なこと、できることはちがう。それを生かして地域医療をするのが大切だと思った。
- 3日間で感じてきたことや考えてきたことを改めて振り返ることができた。今まで以上に地域医療に関心をもち、将来は機会があれば地域の診療所で働いてみたいと思った。

12 研修の感想

〔感想①〕

実際の地域医療を目にしたことで、自分の中にあった考えと照らし合わせることができました。変えていかなくてはならないこと、もっと勉強し、成長させていくことが必要なこと、知り得なかったことなどに触れることができました。

現場で働く人々からのリアルな声を聞くことができたこと、また、医学の勉強を重ねてきた上級生からの意見も聞くことができて良かったです。

〔感想②〕

今まで医大の授業や大学入試前の受験対策などで何度も地域医療という単語は聞いていたが、今回の実習ではじめてその単語の真の意味について実感をもって考えることができた。敬老会に参加して一緒にレクリエーションをしたという朝日診療所の森先生や、救急隊員にも医療知識を授け、一緒にチームとして医療を進めているという佐竹先生のお話などで、将来自分が医者となったときに非常に為になることを多く学ばせてもらった。

〔感想③〕

今までは、地域医療に必要なことは何かや、より良くするにはどうすれば良いかなど、頭の中で考えて口に出して述べることは出来ても、気持ちがついていない面がありました。

今回の実習で実際に患者さんや医師のお話を聞いたり、施設を見学することによって、地域医療への関心が高まったと感じています。この3日間で自分が感じたことを忘れずに、大学生活を送りたいと思います。

〔感想④〕

今回、会津・南会津コースで学ぶことができてとても良い経験になりました。まず、地域医療に関するイメージが大きく変わりました。今までは人手の足りない中で行われているため、とても苦労が多いと考えていましたが、お話を聞くとそんなことはなく複数の人で協力しながらうまく連携されていて、当初考えていたような苦労はありませんでした。

また、様々な出会いから得られる新しい発見があったことは良かったと思います。医師と社会との関わりや、今後の将来を考える上で福島以外を視野に入れるというのは新鮮な考え方でした。

〔感想⑤〕

今回の研修で、自分は狭い視野でしか地域医療について考えていなかったことに気づいた。

多くの人に関わっているため、自分から関わっていかないと患者との信頼関係も築けず、多職種間の連携もとれなくなる。森先生や佐竹先生のように、関わりを大事にすることの必要性を感じた。また、いままで医療というのは病院内で終わってしまうものだと考えていたが、地域全体で支える考え方を知り、衝撃を受けた。今回のような研修で、今まで学校で得た知識を現場を通して見ることでより深く理解することができた。



地域医療体験研修 報告集

令和元年11月6日 発行



福島県会津保健福祉事務所
福島県南会津保健福祉事務所
総務企画部 総務企画課
電話番号 0242-29-5506
F A X 0242-29-5509
aidu.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp